

## 広野駅環境美化清掃活動を実施



↑清掃活動に集まった参加者の皆さん

6月23日、広野駅環境美化清掃活動が行われ、広野駅環境美化推進協議会メンバーを中心に、広野町婦人会会員、東京電力HD社員、JR東日本OB、地元企業、広野町役場職員など約80人が、駅構内や駅前広場、駅周辺の除草作業に汗を流しました。

## 復興まちづくり計画策定委員会を開催



↑議論を深める委員の皆さん

6月19日、復興まちづくり計画策定委員会を広野町役場で開催し、遠藤町長が委員10人に委嘱状を交付し、「ふる里を思う力を結集して議論を深めてほしい。」と挨拶しました。同委員会は、ニッソ総合公園の利活用や平成30年度内の策定を目指している広野駅などに関する復興まちづくり計画の議論を深めるため設置されたもので、委員長に広野町振興公社の中津弘文社長が選出されました。

## セブンイレブンジャパンと高齢者支援に関する協定を締結



↑協定を締結した竹内マネージャー(写真左)と遠藤町長(写真右)

7月19日、町はセブンイレブンジャパンと高齢者支援に関する協定を締結しました。移動販売による買い物支援サービスは双葉郡内で初めてとなる取り組みで、パンや飲料水、冷凍食品など約150種類の商品を積んだ移動販売車が月曜日から金曜日まで町内の住宅地などを巡回します。

協定締結式では、セブンイレブンジャパンの竹内美靖いわき地区ディストリクトマネージャーと遠藤町長がそれぞれ協定書にサインしました。

## 滝本フジヨさん百歳を祝福



↑遠藤町長から賞状を受け取る滝本さん(写真右)

7月12日、滝本フジヨさん(大正7年7月12日生まれ)が100歳を迎えられたことを祝い、広野町役場で百歳賀寿贈呈式が行われました。新妻勝幸相双保健福祉事務所長が知事賀寿と会津塗の木杯を手渡し、遠藤町長が町賀寿と祝い金を手渡し、お祝いの言葉を述べました。滝本さんは「長寿の秘訣は、バランスの取れた食事と運動。常にやる気を持つこと。」と話しました。

## いわき市と双葉8町村が合同要望活動



↑吉野復興大臣に要望書を提出した各市町村長

6月27日、遠藤町長は、いわき市と双葉8町村の合同で、政府と自民党に対し、2020年度で設置期限が切れる復興庁の後継組織の在り方や財政支援の方針を早期に示すよう要望しました。併せて、復興・創生期間が終わる2021年度以降も、東日本大震災と東京電力福島第1原発事故の被災地の再生に必要な復興施策を推し進めることも求めました。清水敏男いわき市長と双葉郡の各町村長が復興庁を訪れ、吉野正芳復興相に要望書を手渡しました。このほか、首相官邸や内閣府などにも要望しました。

## 西芳照さんが町に帰国報告



↑町職員らの出迎えを受ける西芳照さん(写真左)

7月10日、サッカー日本代表専属シェフとして帯同した西芳照さんが広野町役場を訪れ、遠藤町長に帰国を報告しました。町職員ら約30人が日本代表ユニホームを着て西さんを拍手で出迎えました。

西さんは事前合宿では3食全てに広野産米を提供したことを紹介し、「選手らにとってもおいしく食べてもらいました。16強入りを果たし、皆さんに勇気と感動を届けることができました。」と述べ、遠藤町長に日本代表のサイン入りユニホームなどを手渡しました。

## 東京電力HD小早川社長が来庁



↑小早川社長(写真右から2番目)から説明を受ける遠藤町長(写真左から2番目)

7月6日、東京電力ホールディングス(株)小早川智明社長が広野町役場を訪れ、遠藤町長に対して福島第2原子力発電所の廃炉方針について説明をしました。

遠藤町長は、「廃炉の速やかな決定と廃炉工程の早期提示をしてほしい。また、被災地が復興できるよう雇用などへの対応もしてほしい。」と話しました。これに対し、小早川社長は、「さまざまな課題を検討し、正式に第2原子力発電所の全基廃炉を決定していきたい。」と話しました。

## 広野町健康づくり計画策定ワーキンググループ委嘱状交付式



↑会議の様子

7月12日、広野町保健センターで広野町健康づくりワーキンググループに参加する委員への委嘱状交付式が行われました。同グループは今年度内に策定予定の「第二次広野町健康づくり計画」に盛り込む具体的な施策や事業目標の設定などについて専門的な知見から助言などを得て、より効果的な対策を推進するために設立されました。

交付式では、遠藤町長が挨拶をし、委員に委嘱状を手渡しました。委員の任期は平成30年7月12日から平成31年3月31日までです。